

長野市自然環境影響調査結果届出書

令和8年5月8日

(宛先) 長野市長 荻原 健司 様

住所 長野市大字鶴賀緑町 1613 番地

氏名 長野市長 荻原 健司

(スポーツ部スポーツ課)

連絡先(電話) 026-224-5083

長野市自然環境保全条例第 16 条の規定により飯綱高原自然環境保全地域内において実施した自然環境影響調査の結果は、下記のとおりです。

記

- 1 行為の場所 長野市大字富田
- 2 行為の規模 既存舗装の撤去、既存建屋の撤去(一部)、天然芝グラウンド1面の整備、天然芝広場1面の整備、防球ネット設置、給排水設備の埋設、駐車場整備、切土造成、車庫新設

3 調査の結果

(1) 当該行為の影響が及ぶ地域の自然の現況及び特質

ア 特異な自然現象

事業計画地における特異な自然現象は確認されなかった。

イ 気象

事業計画地は、標高 1000m前後の高原地帯にあるため年間を通じて冷涼であり、内陸型の地理的条件から比較的降水量は少ないが、長野県北部の多雪地域に近く、飯縄山をはじめとした上信越高原国立公園の山岳地地帯の山麓部に位置することから、長野盆地に比べて降水量は多い。

(ア) 気温

長野(標高 418m)の年間の平均気温は、12℃前後、信濃町(標高 685m)は9℃から 10℃前後である。また、最低となる1月と最高の8月との差は、両地区とも約 25℃の差がある。事業計画地の標高は約 1050mであり、例示した地域より平均気温は低くなる。季節や気象条件にもよるが、一般的に標高 1000mあたり 5℃~6℃程度変化するといわれていることから、事業計画地の年間平均気温は 6℃~8℃程度になるものと推測される。

(イ) 降水量

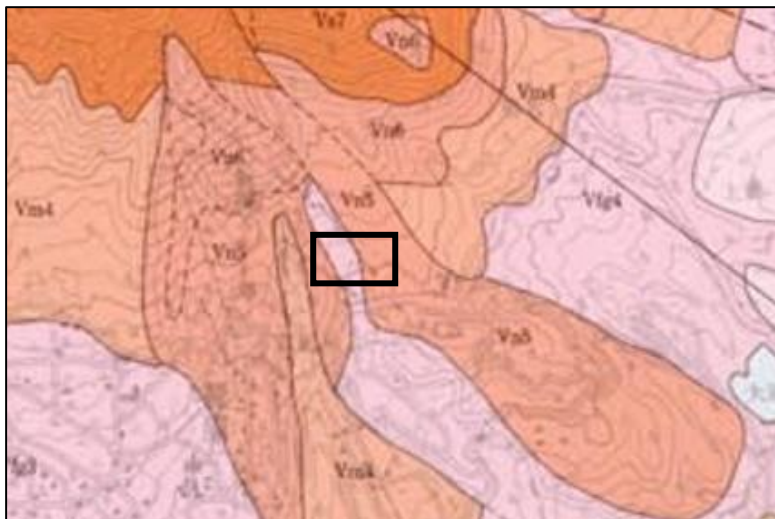
事業計画地に近い芋井地区(芋井)は 800mm~1400mm であり、長野市地区の 500mm~1000mm に比べて降水量が多い。

ウ 地形

事業計画地は、傾斜 15° 以上 20° 未満の火山地一般斜面(Va5)と傾斜 8° 以上 15° 未満の火山麓扇状地(Vfg4)に区分されるが、現況は平坦な地形であり、土地の安

定性は比較的高いものと考えられる。

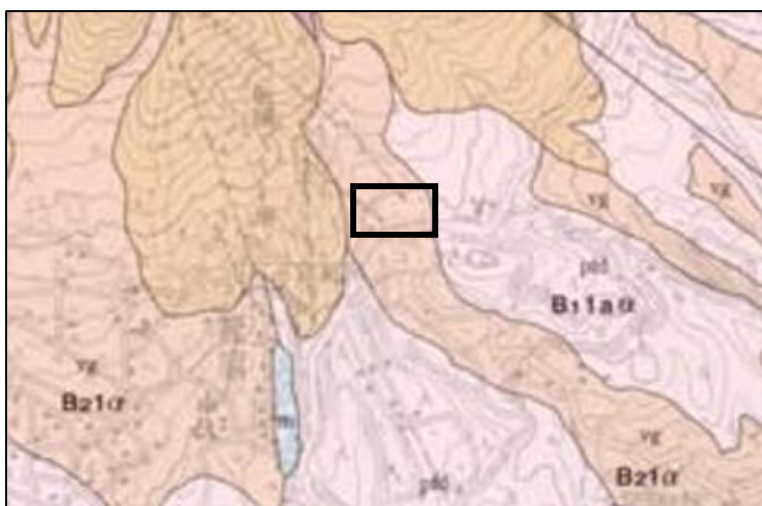
また、事業計画地は、飯縄山の火山噴出物が形成した山麓の緩傾斜地に位置している。その南側は、芋井集落に向かって急激に落ち込む斜面地となっていることが特徴的である。



出典) 国土交通省 土地分類基本調査 地形分類図

エ 表層地質等

事業計画地は、主に火山砂礫 (vg) に区分され、この堆積物は更新世後期時代の岩体も岩片も軟らかい(B2-1a)表層地質とされているが、現況はアスファルト舗装を施しており、長年土地の安定性を保持している。



出典) 国土交通省 土地分類基本調査 表層地質図

オ 植物

事業計画地は、環境省ジオポータルによると畑地雑草群落に分類され、現況はアスファルト舗装によって植生が無い状態ではあるが、周辺にはミズナラ、ブナ、ウラジロモミジ、シラカバ、トチノキ等の樹木が自生又は植樹により分布している。

事業計画地北側法面においては、樹木の定着により崩落の危険を回避、土地の安定性を確保しているものと考えられる。

カ 動物

(ア) ほ乳類

事業計画地より約 2.5km の距離の地点で平成 25 年～平成 26 年の期間に実施した調査において、ノウサギ、ニホンリス、アカネズミ、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、イノシシ等が確認され、貴重種に該当したのはリス科のニホンリスとムササビ、クマ科のツキノワグマ、ウシ科のカモシカの 4 種であった。

(イ) 鳥類

事業計画地より約 2.5km の距離の地点で平成 25 年～平成 26 年の期間に実施した調査において、ヤマドリ、キジ、キジバト等の鳥類 34 科 79 種が確認され、貴重種に該当したのはアオバト、ハリオアマツバメや猛禽類（ハチクマ、ハイタカ等）で 19 種であった。

(ウ) 両生類・爬虫類

事業計画地より約 2.5km の距離の地点で平成 25 年～平成 26 年の期間に実施した調査において、アカハライモリ、アズマヒキガエル等の両生類、アオダイショウ等の爬虫類が確認され、貴重種に該当したのは両生類のアカハライモリ、アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエルの 3 種であった。

(エ) 昆虫類

事業計画地より約 2.5km の距離の地点で平成 25 年～平成 26 年の期間に実施した調査において、最も多くの科数となったのがコウチュウ目の 36 科で、次いでカメムシ目とチョウ目の 22 科、ハチ目の 19 科であり、種数ではコウチュウ目が 190 種で最も多く、次いでハチ目の 75 種、カメムシ目 69 種、チョウ目 59 種が確認され、貴重種に該当したのは 5 目 9 科 10 種であった。

キ 陸水

事業計画地においては、該当なし。

ク 自然景観

事業計画地周辺の自然景観地として、飯縄山、大座法師池、大谷地湿原があげられる。事業計画地からは、飯縄山を望むことができる。



出典) 飯綱高原観光協会公式サイト

ケ レクリエーション利用

事業計画地周辺には、飯綱高原キャンプ場、ナガノフォレストビレッジ等の自然系のレクリエーション施設をはじめ、飯綱高原南グラウンド、長野カントリークラブ等の運動施設が立地している。また、事業計画地は飯綱高原スキー場の駐車場として利用されていたが、降雪量減少等の理由により 2020 年にスキー場が閉鎖されている。

(2) 当該行為の自然環境に及ぼす影響の内容及び程度（軽減措置）

ア 特異な自然現象の改変の程度及び内容

該当なし。

イ 地形

(ア) 地形の改変の程度及び内容

施設の維持管理の効率化を図るため、管理用道路の設置に際して幅員を十分に確保する目的で切土による改変を行う。あわせて法面崩落の危険から利用者の安全確保を図るため、法面部においては延長約 150mの最小限の範囲において、約 8,000 m³の掘削工を計画している。

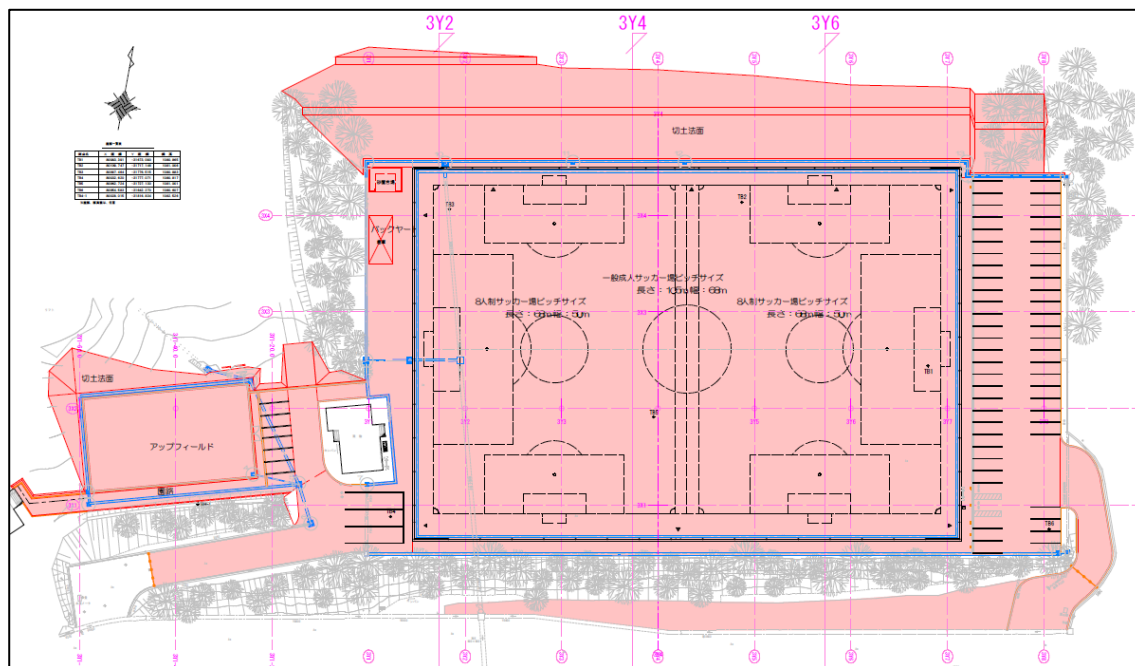
平地部においては、天然芝生育のために必要な下層部路盤を構築するため、長辺約 120m、短辺約 80m、広場部分の整地を含め約 2,500 m³の掘削工を計画している。

(イ) 土地の安定性の変化の程度

現況駐車場の平坦性を活かした整備を計画しているため、事業計画地の土地の安定性及び周辺に変化は生じるものではないと考えられるが、一部法面崩落の危険から利用者の安全確保を図るための安定勾配措置を講じるため、法面部分については土地の安定性が向上するものと予測される。

(ウ) 特異な地形の改変の程度及び内容

該当なし。



全体計画図

ウ 地質

(ア) 表層地質の改変の程度及び内容

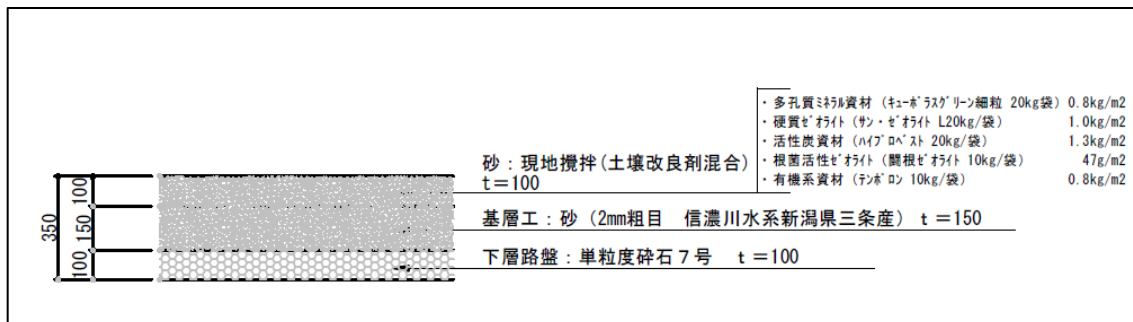
天然芝グラウンド部分については、長辺約 120m、短辺約 80mの範囲においてアスファルトで舗装されている表層を撤去し、単粒度砕石、砂、芝生に改変するが、改変深度は 35 cm以内程度であることから表層地質に与える影響は極めて少ないものと予測される。

(イ) 土地の安定性の变化の程度

切土する法面部には、植生マットを敷設することで安定性を向上させるものと予測される。

(ウ) 特異な地質の改変の程度及び内容

該当なし。



路盤構成

エ 植物

(ア) 植生の消滅の有無並びに改変の程度及び内容

切土する法面部に植生している樹木は伐採するが、法面天端部には新たに植樹を計画している。また、安定勾配を確保した法面部には植生マットによる緑化措置を講じる。

(イ) 貴重な種群落又は植生の消滅の有無及び改変の程度

事業計画地は、畑地雑草群落に分類され、現況はアスファルト舗装によって植生がない状態であるため、貴重な種群落又は植生の消滅に与える影響はないものと予測される。

(ウ) (ア)及び(イ)に関して改変地域の周辺の植生等に及ぼす影響

採用する天然芝品種は固有種ではなく、匍匐性の高いバミューダ系グラス「タホマ 31」である。自生拡散による周辺環境への影響が否定できないため、グラウンド周囲にはコンクリート舗装を施し、管理エリア外に拡散しない措置を講じる。

(エ) 保全機能の変化の程度及び内容

天然芝の維持管理上、健全な生育のために施肥を行い、病虫害を駆除するために農薬を散布することになるが、周辺環境に与える影響を最小限に留めるよう関係規定等を遵守の上、適切な維持管理に努める。

また、グラウンド周囲に防球ネットを設置する計画だが、植物の日照不足等への影響は極めて少ないものと予測される。

オ 動物

(ア) 貴重種その他重要種の生育環境の消滅の有無及び改変の程度

切土する法面部は周辺山麓、森林から連続性がない立地であり、下段はアスファルト舗装といった人工的な環境である。事業計画地調査時においても動物等の活動を目にしたことはなく、また周辺生育環境に比してごくわずかな範囲であるため影響は極めて少ないものと予測される。

(イ) (ア)に関して改変地域の周辺の貴重種その他重要種の生育環境に及ぼす影響

該当なし。上記(ア)と同様。

カ 陸水

(ア) 河川の流量並びに流況の改変の程度及び内容

天然芝生育のための水源として、従来河川に放流されていた旧スキー場ゲレンデの表流水を活用する計画であるが、最大でも1日80 m³程度の使用量と見込んでおり、下流河川の流量に与える影響は極めて少ないものと予測される。

(イ) 湖沼の改変の程度及び内容

該当なし。

(ウ) 水質の変化

該当なし。

(エ) 水生生物の損傷の有無及び種類等の変化の程度

該当なし。

キ 自然景観

(ア) 主要展望地点からの眺望に与える影響

事業計画地において主要展望地点の該当はないが、法面部の切土に伴う樹木伐採によって、事業計画地から飯縄山を一望することが可能となる。

(イ) 自然景観の醸し出す雰囲気を与える影響

従来アスファルト舗装であった景観が、天然芝の鮮やかな“緑”に変貌するため、自然景観の向上を図ることができる。

防球ネット及び支柱により人工物が視界に入ることになるが、茶系等の色彩を選定し、可能な限り自然景観に調和する仕様とすることで影響を最小限に抑える工夫を図る。

ク レクリエーション地域

(ア) レクリエーション地域及び利用施設の消滅の有無及び改変の程度並びに利用状況の変化

駐車場内の遊休施設を撤去し、活用可能な既存施設については外観の刷新をすることで、周辺環境との調和を図る。

飯綱高原の冷涼な気候を活かしたスポーツ合宿の積極的な誘致と、グリーンシーズンにおける運動施設としての機能拡充を図り、市内外から多くの来訪者を惹きつけ、豊かな自然を深く体感できるスポーツ×観光交流拠点へと改変する。



(3) 当該行為の自然環境に与える影響の軽減措置
上記(2)に軽減措置の具体的方法も併せて記載。

(4) 評価

本事業は、長年スキー場の駐車場として利用されてきた既存の舗装用地を活用し、天然芝グラウンドおよび広場を整備するものである。現況がすでにアスファルト舗装された人工的な空間であることから、改変による生態系や自然環境に与える影響は極めて少ないものと評価できる。

事業計画地は、すでに人工的に造成された場所であり、貴重な植生や野生動物の生息環境としての価値は限定的で、事業実施にあたっては地形改変を必要最小限に留めるとともに、グラウンドの天然芝化や法面の適切な植生保護措置を講じることで、土地の安定性や周辺の自然環境に対する負荷を抑制する計画としている。

また、本事業は従来のアスファルト舗装景観を天然芝の緑豊かな空間へと転換するものであり、飯縄山の景観と調和した魅力ある空間の創出が期待できる。水資源の利用や日常的な維持管理においても、周辺環境への影響を最小限に留めるための適切な対策を講じることで、環境への影響を抑制することが可能と考えられる。

(5) 調査者の氏名及び住所

名称 長野市 長野市長 荻原健司（スポーツ部スポーツ課）

住所 長野市大字鶴賀緑町 1613 番地